

問13：「桜島・錦江湾ジオパーク」について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

一時期マスコミに取り上げられて知りましたが、それ以降特にテレビ等で目にすることが無くなり、今はどうなっているのかわからないといった感じに受け取っています。

自然(火山、地質)との関わりにおける、文化と歴史のさらなる充実を期待します。

県外からのお客様の観光にも活用できると思います。

日常生活の中でジオパークについての情報を知る機会がなかなか無い。

ジオパークのネーミングがまだ浸透していない。カタカナだとはじめて聞いたとき何なのかわかりにくかった。

関心はない

新聞購読しています。定期的な情報発信があるともう少し興味が出たかもしれません。

PR大使の推進

ジオパークは観光資源にもなりますよね？桜島をもっと観光できるようなしくみを作るべきでは？バスしかありません。

様々な取り組みがあるようなので是非参加したいが、知名度がいまひとつなのではと思っておりました。

桜島は鹿児島県民はもちろん、全国的にもある程度の認知があると思うので、ジオパーク認定を機に、テレビなどで桜島の魅力をさらに発信し多くの人に知って興味を持ってもらえると、よりジオパークが盛り上がると思います。

具体的なイメージがわからない。わかりやすいイメージ作りが必要。

ジオパークという言葉は印象的なのですが、私たちの生活にはあまりなじみがないと感じます。

さまざまな催しをしているが、なぜか一体感がない。  
またスケールが大きいなのに、それもいまいち伝わらない。今のデザインがやや子ども向き。大人を対象に、ナショナルジオグラフィックのような芸術的な写真を多用したイメージ戦略も期待したい。

気軽に楽しめることがあるなら、教えてほしいです。

桜島や錦江湾のどのようなところが魅力的で、ここでしか見れない、体感できないものというものをもっと発信していけば認知度が高まっていくのではないのでしょうか。

まずは、料金的にリーズナブルな利用場所と子供がいるので子供でも無理がない興味が持てそうな場所に行ってみたいと思う。

いい取り組みだが、その資源をいかした取り組みが目立ったものがないため若干マイナーな感じを受ける。また県外からの観光客も、これ目当てに来ることは少なく感じる。もっと有効利用するべきと思う。

火山の噴火というと、災害との結びつきをイメージしやすいと思うので、降灰は災害ではないことを周知してほしい

一度は行きたい

桜島や錦江湾には親しみを感じるが、ジオパークという言葉が知らなかったのでイメージがわきにくい。

認定されたら具体的に何がどうなるのかを知りたい。

よくイベントのぬり絵などを子供がさせてもらいます。簡単な映像でのCMなどあればいいかなと思います

今ジオパークのスタンプラリーに挑戦中です！

世界でも類を見ない活火山と生活の融合は観光価値が高いと思います

市内だけでなくエリア拡大で指定されるように、関係部署は、頑張ってください。

ジオパークとは文字どおりの意味は「自然公園」ですが、中身や実態・その本当の狙い（本質）は「地域おこし」になっている（を狙っている）と思います。ここをもっと自覚し、地域の人、住民を主体にした取り組みが求められていると思います。

鹿児島の特徴であるジオパークを観光資源に活用し、地域活性化につなげたい。

桜島のセンターで見た映画が楽しかった。また、科学館のワイドムービーも見ごたえがあった。

アピール不足だと思う

桜島・錦江湾ジオパークと聞いたら、桜島や錦江湾の魅力を感じられる体験をしたいと思う。

桜島・錦江湾ジオパークに認定されてからの経済効果はどのくらいでしょうか？  
鹿児島市の観光・地域振興は幕末・明治維新の歴史に頼りっぱなしなイメージが強く、その他の観光や地域振興にももっと力を入れるべきだと考えます。  
せっかく「桜島・錦江湾ジオパーク」という素材があるのならもっと市民のほとんどがリピーターになってもらえるような興味付けが必要かと思います。

桜島および海底火山の噴火により津波が発生した場合の影響がとても気になっています。

詳しい事は今でも良くは分かりませんが、自分の住む鹿児島の事は知っておきたい。楽しく学べる機会があれば参加したい。

もっと宣伝して、観光客に関心を持ってもらいたい

「桜島・錦江湾ジオパーク」サポーターの講座を実施して、今後の活動普及に努める方策をお願いしたいです。

色々なイベントを開催していることを知りましたが、あまりTVを観ないので、分かりませんでした。CMやポスター案内などを強化していくのも大事かもしれませんね。

「桜島・錦江湾ジオパーク」に何かキャッチコピーをつけて子どもから老人までわかりやすく、興味をひきつけてほしい

鹿児島の誇りである桜島をもっとPR、観光面で生かしてほしい。桜島で、いろんなイベントを開催しても？

活動火山と60万の市民が共存共栄していることは世界的にも稀で昔からそのエネルギーを戴き歴史的にも多くの偉人を育み海外との交流や物流等日本をリードしてきたことから世界中の人々へアピールし続けることが必要と思います。

いただいたパンフレットを読むとすごく楽しそうに思いました。知ってもらうきっかけを増やしていけば、興味を持つ人は増えると思います。

「ジオパーク」という言葉になかなか慣れない。以前、説明も受けたことがあるのに、今では思い出せない。何でもカタカナにしないでもっとわかりやすい言葉のほうが良いと思う。

桜島・錦江湾ジオパーク認定を受けて、旅行などの人口流入を増えればと思います。

鹿児島といえば桜島。山と海の恵みを生かしていることは素晴らしい事です。これからも火山なしでは語れないと思うので桜島や錦江湾をいかした事をもっとしてほしいと思います。

桜島・錦江湾ジオパークという素晴らしい土地にすんでいることは名誉なことです。機会があったら参加したいです。

ジオパークの範囲がわからない
桜島・錦江湾がジオパークに認定されていることをあまり知らない市民もいるのではないかと思います。私も鹿児島県鹿児島市に住んでいながら素晴らしい所があることをもっとPRしていかなければならないと思います。
桜島は鹿児島での「観光」の目玉ではあると思うが防災という面からも教育的材料になると思う。絶えず噴火し、灰を吸き出す山を共存して暮らす鹿児島の特異性(?)をより生かせる形となると良い。桜島のビジターセンターはここ何年かでかなり整備されておもしろくなっていると感じています。(観光という点では、食事あるところも少ないし、さびれた閉館された温泉旅館といい、ただ1周するだけで終わる心に残る景観スポットは少ないかも)桜島大根・小みかんともに心ひきつけるものとしてはさて?県民と県外の人との差もあるかも
桜島と錦江湾を毎日見ながらの生活ですが、このあたりまえの自然との共生を県民(市民)一人々がもっと自覚し、自覚尊重することにより未来の子供達にバトンタッチできるものだと思っています。
桜島・錦江湾はあまりにも身近すぎて興味を持ってない
火山大爆発がおこった時どのような事がおこるのか実体験ミュージアムの建設。ジオパーク実感わかない!
桜島を活かせることはとても良いことです。見ていて飽きないですね。
鹿児島県、宮崎県、霧島連山が連なる地形。各々が観光に力を入れていらっしゃるすばらしいガイドブックも手に取ることがあります。しかし、50代にしてはじめて、宮崎側の神社を巡りました。これまで霧島神宮しか知らずにいたので、六社権言を知りびっくりしました。相互に行き来できるエリアについてもっと可能性を広げるべきだと思いました。同様に桜島へ陸路コースも整備されているので空港～福山～桜島をとおりフェリーから市内への観光客を導くコースもセールスしたらよいのではないのでしょうか。空港から高速道路から市内へ入ると景色も違うと思います。都会の人のパワースポット何もない魅力を伝えたいです。
あまり時間がなくて知る機会がない。参加はしたいのですが。
鹿児島市ほど火山に近い都市は他にないので、観光用の温泉マップがあれば便利だと思います。
県外の知人に桜島についてたずねると「もちろん知っている、行ったことがある」と答えるのだが、ジオパークについては全く知らないという。個々の史跡、景勝地の観光も大事ですが、ジオパークとしての壮大なスケールの素晴らしさをもっとアピールしてほしいです。
桜島を背景に錦江湾にヨットがうかベイタリアの風景を見習って欲しい(絶景の可能性)
もっと宣伝してほしい

普通に生活している分には、あまり身近に感じる事が無いので、もっと名称・中身の周知が必要なのかな、と思います。桜島も錦江湾も非常に優れた観光資源だと思うので、もっと沢山の人が知ってもらいたいです。

体験プログラムに興味はありますが、どれも料金が高く感じてしまいます。

道の駅桜島をもっとあたたかい内装にしてほしい。もう少し鹿児島県の木材を使って！

桜島の景観はすばらしく、鹿児島県民が誇りに思うことは十分納得できるものです。私は他県から来ましたが、桜島の景観を見て過ごした人にとって、桜島は心に残る景色だと思います。地形や火山のことなど細かいことがわからなくても、桜島の形や迫力だけで十分観光客を魅了する力を持っていると思います。

パンフレットを見て陶芸体験、足湯掘り体験にとっても興味を持った。長く鹿児島に住んでいるがそのようなプログラムがあるのを初めて知った。観光ガイドに乗せると観光客増加につながると思った。(るるぶなどの)(修学旅行生向けの)

「ジオパーク」という言葉は耳にしますが、中身はわかりません。

桜島という自然資源を生かしきれていない。降灰というマイナスのイメージが大きい

桜島も活動が激しくなっているが大噴火が起きた場合島の方々はどうなるだろうか、いざとなったら交通関係など

家族で参加できるイベントや催し物があると良いと思います。また教育の場としても活用していけば子供たちへも浸透していくと思います。

「火山と海の冒険手帖 桜島・錦江湾ジオパークガイドブック」について、“気軽にできる体験プログラム”なども記号などで地図上に表記したほうが良いと思います。どこに行けばそのプログラムを体験できるのか分かりづらいです。

地図上に書いてある“桜島港周辺2時間コース”などは、そういうツアーがあるのかと思い、いろいろ探しました。2時間でまわりたいならこのコースがオススメということでしょうか？そのあたりが分かりづらかったです。

情報が一冊にまとまっているのは嬉しいです。

ガイドマップを拝見し、各項目ごとにコースもあり多様な史跡・埋蔵文化財がある事に感心しました。素晴らしい自然に恵まれた鹿児島も捨てたものではないですね。色々な活動に機会があれば是非参加したいと思います。もっと近場にパンフレット等があれば幅広い世代に関心をもって貰えるのではないのでしょうか。

今回送っていただいたガイドマップを見て定期観光バスなども充実している事を初めて知った。桜島は毎日見ているがなかなか周遊する機会がないのでツアーなどに参加する事で桜島の新たな魅力を知る事が出来そうだ

「ジオパーク」の名称を老人でも子供でも親しみやすいものに変えられないか。名称からして市民には分かりづらいと思う。

桜島フェリー経営の2018年度決算額4.2億円の赤字を新聞で見ました。他県に住んでいる方々から鹿児島は「桜島」という火山活動がある中、島に住んでいる人もいて桜島のスケールに感動していく観光客も多くいます。再度活性化の為に「グレートサツマニア」ライブもうちの娘も毎年参加しています。桜島を守りたい。フェリーのうどん屋を守りたい。大隅へ行く際は必ず通る。

「学び」という雰囲気だと、若い人達の参加はむしろ嬉しい様を感じる。フェスは良いと思うが、チラシをもっとインパクト的にもっと目を引くようなものにすると思う。インスタ等のSNSで広がるものだと◎

桜島・錦江湾ジオパークガイドマップを拝見し、桜島周辺には、地形や環境と上手に向き合った施設等があることを知りました。

ジオパーク（地球の大地）公園 桜島・錦江湾ジオパーク 自然を守りつつ開発・観光につなげるためのイベント研修会等、桜島一周、錦江湾巡りツアー（観光）古里、温泉付近の開発、桜島展望所の整備

少し知っている程度なので、もっと身近な取り組みだといえると思う。小中高校などで、もっとイベントのようなものがあったらいいと思う。

地域及び市民参加に向けて積極的なPRと又参加できるような行事・イベントを取り組むべきだと思います。

メディアとの連携などにより認知度を高め、観光などの様々な活動を活性化してほしい。

全国的にイベント、ツアー等のご案内をして多くの皆さまに鹿児島を訪れていただき、自然の素晴らしさ、また大切さを実感してほしいです。

自家用車でまわった時に道が分かりにくかった。もう少しトイレ施設をかねてゆっくりできる場所があっておみやげ物が充実する所を増やしてほしいです。

ジオパーク活動がよくわからないのでもっと大々的にPRした方が良いと思います

子どもと一緒に参加できるイベントが増えると嬉しいです！

両親が桜島の出身なので幼い頃から桜島には何度も行っているのに知らないことが多い。今回パンフレットを見て桜島をまわってみたいと思った。

鹿児島空港、中央駅…鹿児島に到着したところから鹿児島のおもてなしをして全てで満足してもらえるようにしていかないと、点としての「ジオパーク」であるなら何をやってもうまくいかないとと思う。

名前や施設については街中の広告などで目にして知っていて気にもなりましたが、いざ踏み出すまでに至らなかったため、このアンケートをいい機会に行ってみたいと思います。

長年住んでるからでしょうか。年齢的かもしれませんが、あまり深い関心はないです

何となく身近に感じておりませんでした。意識不足です。すみません。

「聞いた事はある」し「だいたい」こんな内容かな…くらいの意識で、周りの人との会話や職場の人との話題として出たことは無い…です。難しいですね。こんなに毎日降灰もあるのに…。

灰で絵を書く人の事はテレビで何度か見たことはあります。平成25年認定され6年たつのに知らなかったなので、興味を持つようにしたい

そもそもジオパークについての周知・説明が足りないように思う。

ジオパークだけでは集客力に不足があり破綻してしまうと新聞で見つけたので、史跡めぐりなどと組み合わせも必要かと。沖小島の砲台跡を見せるカヤックツアーなので沖小島の観光開発なども必要かと。

防災施設見学だけでなく、避難経路の確認や、噴火予地のシステム見学を見たい。鹿児島を訪問した人は必ず、こんな近くに噴火する山がある所に大きな町があり、人が住んでいることにおどろく。住民である私たちは桜島と共存している自覚がもっと必要と思うし、自分の身は自分で守りたい。

ジオパークのパンフレットに初めて目を通しました。写真も沢山あり、カラーで見やすく、良いパンフレットなので、鹿児島市内でももっと手にとりやすい場所に置いてあっても良いのでは？と率直に感じました。私のように「知らないor見る機会がない」人も多くいるように感じます。目を通して、行きたい場所が増えました。

「ジオ」とは地球や大地という意味であることも知りませんでした。「ジオパーク」が、地球や大地の素晴らしさを体験できる公園、平成25年に認定されたことも知りません。これを機会に来年は是非「灰フェス」にも参加してみたいと思います。まず講座やイベントなどに参加して知ることだと痛感します。

鹿児島は活火山と共存しなければいけない地域である。火山のことを知り、防災、観光、良さも悪しき（改善、対策）も熟知生かすことはとても大切だと思う。ジオパークは県民にとって必要であり学び楽しみの中場だと思う。

素晴らしい取組かと思えます。県内の方も県外の方も鹿児島ならではの自然の中で、貴重な体験楽しいイベントを通じて、全国、全世界の方々との交流の場になればと思います。そして、自然を守ること、環境や資源について楽しみながら学ぶところとなってほしく思います。

誰もが出しやすい入館料などでおさえられるといいのですが、そうなれば提供出来る事も限られてしまいそうなので、「行きたいな！」と「これぐらいだったら出せるな！」と思って頂けることと、帰られる時に「また来たいな！」と思って頂けるような取り組みを期待してみたいです。

ことばで聞いたことはあっても、実際の活動はほとんど知らなかった。灰フェスも、たまたま通りかかったイベントでした。桜島のことや錦江湾のことは、住んでいる以上ある程度は知っておきたいけれど、もう少し身近に学べるといいのに、とは思う。テレビの5分番組みたいな。まめ知識みたいな。YOUTUBEとか？

身近な桜島・錦江湾を知るきっかけになると思う。

公募型無料バスツアーの企画してほしいです

ハガキをよく使います。ハガキに広告（ジオパーク）のあるもの（63円が60円で購入できるなどメリットがあれば）があれば利用したい

広報活動に力を入れれば、より多くの方に認知、活動参加いただけると思います。貴重な活火山を持つ県として、より多くの方に参加いただくことを目指されると良いと思います。

桜島に大型イベント、スタジアムを検討して下さい。

鹿児島市内にも何か施設をつくるべき

## 問28：鹿児島市の自殺対策についてあなたの意見をお聞かせください。

自殺を考える方は周りには知られないように過ごしていると思うので、身近な人の気付きがなりよりも大切だと思います。そのために気づいた人が相談できるしくみが必要なのでは？

とにかく取り組みの周知が大切だと思います。

年間100人も自殺者がいるとは知らなかった。自殺対策事業やゲートキーパーの存在を広めるためのPRが必要だと思います。

自殺を考えている人の情報をどうやって集めるか？

広報が足りない

相談相手が顔を合わせない相談のやり方

特にデリケートな問題だから対応が難しい。  
自分だったら、話を聞いたもらうだけでも、少しは和らぐかも知れない。

自殺対策を鹿児島市が取り組んでいるということは、それだけ数も増えているということですし、対策として取り組んでいるのは、素晴らしいこと。もっと認知度を高めたらと。



具体策が提案できませんが、形骸化した対策で終わらせないでほしい。

誰しも自殺したくなる事があると思います。  
事務的な対応じゃない窓口が必要だと思います。

自殺相談カードに西郷隆盛や桜島はそぐわない。固定観念が強い鹿児島に生きづらさを感じる人もいるのでは。鹿児島と関係ないデザインがよいと思う。

形式的ではなく、実のある対策を講じていただくよう、お願いします。

精神科となると、受診をためらう方もいると思うので、心療内科等で気軽(風邪の症状と同じように)に受診できることを伝えられたら、受診しやすいのではないかと思います。

自殺対策に取り組んでいるんだなと思ったのは、自由に利用できる御手洗いでカードを見た時でした。ふとした時に目に触れると悩める人は手に取るかもしれませんがもうひと押し何かないのかなと思いました。

顔が見えない相談窓口は無機質な感じを感じる。どんな、人が相談に乗ってくれるのか、テレビやラジオなどのメディアを介して露出させたり、SNSで実名で相談にのったりすると温かみのある施策になると思う。

相談窓口等で相談をすると、聞いて提案をしてもらえらるが、一般的な提案すらも考えられないような状況の場合、その提案が負担に感じて、自殺への背中を押してしまう事があるのではないかと思います。心の問題は答えが無いので、予兆を感じ取れる心を自分自身も持ちたいと思うし、マニュアル的な対策に加えて、心の教育を小学校等からもっと取り入れたら良いのではないかと感じます

たくさんの相談窓口があることは、大変心強いことだと思いますが、問25の質問で、私はなかなか誰かに相談するというのはしづらいなと思いました。日頃から人に話す癖をつけたり、悩みを相談することの敷居を低くしたりすることが大切なのだろうなと感じました。

自殺に追い込まれている精神状態の前に対策をすることが大切だと思います。

自殺をしてしまう時は発作的に突然してしまうと思うので、その前に救い上げる事が重要だと思うが、誰に相談していいのかと言うのが分からないと思うので、相談窓口を一本化してそこから細分化して専門家に繋げばいいと思う。藁にもすがる気持ちで相談したのに、たらい回しにされたら絶望しかない。

無料相談窓口があることをもっと皆が知れるように啓発活動が大事だと思います。また精神科に行くことは敷居が高い気がするので、もっと行きやすい環境作りも必要かなと思います。

行政側よりの告知、相談は正直あまり効果はないかと思う。  
どちらかというと、地域、学校や企業側など身近なところにゲートキーパーなどを充実させた方が効果的に思う。

あまり自殺のニュースを聞かないので、鹿児島で自殺が多いことにピンときません。どこに相談していいかわからず、相談しても解決できるかな?という諦めの方が多いのかと思います。

前向きな言葉のポスター設置

地域に、相談できる場所を作り広報すること。

毎年100人前後とかの実態を全く知らなかったのが、対策についての意見の前に、実態を知ることから始めないと何も言えないと思いました。

自殺のサインは身近なところで発せられるので、小さな集団のなかでケアを行うことが効果的と考える。

話のできる相手がいることが大事のように思えます。ただ、その人その人によって話しやすい相手というのは違うと思うのでそこがむずかしいです。

子供が学校から配布されたパンフレットを良く読まずに廃棄する。どこか他人事のような感じですか。  
対策に対し実績の公表はないのでしょうか？

悩みを聞いてくれる場所があることを数多くの人に知ってもらう活動が必要だと思う

人間関係がうまくいかないとか色々あるとは思いますが、ほとんどは経済的に余裕がある生活が出来れば解決出来るような気がします。  
人間関係がうまくいかなくて仕事を辞めると生活費が、他にも病気療養費、介護費、ご近所トラブルで引越ししたくても引越し費用が必要だったり綺麗事を言ってもお金の問題は大きいと思います。  
市民の所得が上がるような行政の事業者への強力なサポート体制も今後はもっと必要かと思っています。

相談窓口の普及  
名乗らなくても相談できることをもっとアピールしてほしい

小学生、中学生の年代から命の大切さ、自分を大事にすることを理解してもらう。

相談窓口を利用する人は限られてると思うし、存在すら知らない人の方が多いと思う。  
そもそも自殺を考えている人は周りが見えて無いと思う。  
いくらでも逃げ道はあると言うことを納得できるだけの、逃げ道を提示してほしい。そしてそれを大々的にアピールしてほしい。  
逃げ道を見つけ出せないから死を選ぶんだと思います。

話を聞いてすっかりしたから、思うことがなくなり、自殺するひとはいないですか？

一人で悩まず、勇気を持って、相談してほしいです。

私の孫が小学生の時、小児がんになり12時間の手術、1年かけて抗がん剤治療・放射線治療頑張り、再発もなく元気で学校生活楽しんでいます。どんなに辛く苦しい闘病を乗り越えたのは”生きたい！！””死にたくない！！”です！生きていれば…生きてさえいれば、きっといつか光が射すと思います。生きたい！！と闘病中の人達の強い願いをもっと知って欲しいです。

市民のひろばに「鹿児島市無料相談窓口カードを添付し、自宅へ貼るよう指導したら、効果があると思う。

鹿児島での自殺というのにあまりピンときませんでした。私も職を離れた時に、悩みましたが、新たな起業を考えた時に、ソーホー鹿児島に相談して希望が見えました。悩みも人それぞれだと思います。相談窓口からそれぞれの悩みに特化したさらなる相談場所があるのは必要だと思います。

仕事がないのも問題がある（障害者雇用とか）島でも空き家が目立つ。独りにせずそばに寄り添うことも必要。独りで寂しい思いしている人はいるから（障害者も）

人生一度きり、どんそこから、はいあがることこそが生きている証拠。つらいことはみんなある！みんな同じ。たまにははきだそう。

今回のアンケートで、知らない項目が多かったが、点線枠内で説明があり、大変勉強になりました。

隣保共助して防止する。

ゲートキーパー等、素晴らしい取り組みなのに、あまり知られていないと思います。もっと知られてほしい。利用してほしい。と思いました。

これは、小中高で配布しているいじめやDVのカードとは別なのではないでしょうか？ほとんどの相談先が平日の昼間だけしか利用できないので利用しにくい。通話料のかからないLINE通話など利用できるようにしたらよいのではないかと思います。

今回のアンケートの内容は市政コメンテーターが解答する必要がある内容ですか。この内容でコメンテーターが自覚を促しているのでしょうか。私にはアンケートの目的がよくわかりませんでした。

悩みなど個人的なものは各々の本人でなくてはわからないものなので、専門でない私には聞くことしかできないことはもどかしいのですが… 自殺対策のような機関があり、そのような助けを利用して心が晴れることを祈ってやみません。

自殺対策について「相談できる所」と「見守り活動」PR活動周知活動がなによりです。とにかく一人に孤独にさせないことです。そのためには、近所隣同士の声掛け、町内会からの声掛け、いろいろな行事等に声掛けが必要だと思います。

心身健康な時は心に留めないと思うポスターなど地道な情報発信がまず大事だと思う。気になるのは相談員等の対応する個人個人の質です。初動の対応次第でより危機的な状態に向かわせると思う。プロの公認心理等、予算をかけて対応するべきかと。

社会が安定して安全になると他人と異なる状態となる（病気、うつ、破産など）と「自分はダメなんだ」と思う人が増えてくると思います。ニートの方々もその一つだと。多様な人間がいて、その個性を生かした多様な生き方がある、そういった告知、教育が必要だと感じます。

気軽に相談できるかたらいの場の常設

CM等で相談窓口の案内をする

僕が小・中学生の時は、学校に講師の方が来られて、自殺・いじめについての話をされ、終わった後も多少話をする時間があり、自分がどういじめにあい、むきあってのりきれたかということも話せた。いろいろと楽になり、今、生きている。そういう相談のできる講師の来校は大切であり「ゲートキーパー」の取り組みはそこにつながっていくかもしれないので、より効果的に積極的に続けてほしい。

報道等で子供、青少年の自殺がよく発表されるので50～60歳代の自殺が多いことに驚きました。自分が住んでいる地区は70代前後が多く割と皆平穏に暮らしている方が多いので自殺予防対策委員会の調査結果にいささか驚きました。自分達でも後輩達の悩み等、早く気づき、少しでも何か力になればと改めて考えられました。

高齢化社会、団地族は、周りを気にする風土があり、現代社会の現実とのギャップがあるように思う。人と比べずがんばらない。ゆるりと自由に生きる生き方もあることを高齢者にも伝えるべきだ。伝統的な活動である町内会制度も古い体制を引きずったまま、時代にあっていない婦人会、あいご会、男女参画時代に名称も活動も見直すべきだと感じる。男女参画若い世代を地域が追い込んでいないだろうか、と忙しい地域行事参加に思うことがある。警察、市、回覧（グループラインなどもできる）のやり方も検討し、市政を紙にたよる広報も少なくしたほうがよい。

あまり参考にならず、申し訳ありません

身内には相談できないケースもあるので相談窓口の設置は大事だと思います。

悩みのある人は孤立感が強く相談の人も周りにいず、公共機関までは足が遠のく。

相談しやすい環境があればいいと思います。

もっとこのような窓口があることの案内や、相談しやすい場所や雰囲気であれば早目の解決になるのではと思う。

ささいな事でもいいので相談するという選択ができるということが広く伝わればいいです。

自殺する人の多くは、うつ状態になっているのではないかと思います。がん検診などと同じように、うつ病の早期発見のため、自殺が多い年代の方を中心に心の健康診断を保健センター等で受けてもらうようにしてはどうか。

身内に自殺した人がいます（母方の親戚）前職場の上司も。他人ごとではない気がします。もっと気軽に相談できる場所。人が必要だと思っています。建物も、気楽に立ち寄れるようなところ。

生きづらさは各個人個人で違うので他人の自殺したいという気持ちにどのように対応するべきかは正直わかりません。ただ家族がいれば自殺を思いとどまるのではないかと思います。とてもつらいことがあっても、子どもがいて自分は死ねないと思います。大変だけど結婚し子どもを持ち背負うものがあるということが自殺対策になると思います。健康問題に関する自殺については、死ぬ権利や個人の考える死ぬタイミングなど、一概に自殺がダメとも言い切れないと思います。

20代、30代前半の時に自殺で同級生を亡くしました。改めて考えさせられるアンケートでした。有難うございました。鹿児島市では取り組みの成果で死亡率が減少しているのを知りました。これからも一人でも多くの人を救えたら良いなと思いました。

自殺をする人は、どこに相談して良いかわからないのではないかと思います。無料相談窓口カードを目にする事で相談し自殺予防ができれば良いと思います。

悩んでいる人の少しでも力になりたいが、その人の期待にこたえることができなかった時の無力感が心配になる。

市内でも自殺者が多いのはどうしてでしょう。本人になるといくら話し合ったり講演会等があっても聞けなかったり、そんな場所など行く気にもならないのでは。世相が悪いといったら一事ですが、教育、家庭の育て方など関係するのではないかと、命の大切さは教育しなくてはと思う。今回のテーマとは関係ないですが、何時も思っている事は高齢者になりバス停に椅子があったら良いと思いますが電停にある様な簡単なものでも良いです。ご検討ください。お願いします。

ゲートキーパーの存在を知らせる活動をしたらいいと思う。いつ、どこに相談すればよいか、心の寄り所があれば自殺者が少しでも減るのではないかと。

“対策委員会設置の背景”のポイント3にあげている50歳代・60歳代の自殺者数が多いというグラフが2013～2017年合計となっており、“主な取組の成果”で50・60歳代の自殺死亡率が減少に使用されているグラフも同様に2013～2017年となっています。推移としてあげるのであれば、“取組前”“取組後”や“普及前”“普及後”のようなグラフにしたほうが良いのではないのでしょうか。（カラーでは推移が分かりやすいのであれば申し訳ございません）

目ま苦しき世の中において自殺予防に対処されている方々の日々努力にかかわらず多い結果が出ている現状で重苦しいと思う。悩んでいる方々の大半が相談先の不明・悩みの羞恥心だと思います。公共機関「テレビ・ラジオ・新聞」を通じセーフコミュニティ活動に取り組む必要性が肝心だと思う。

市が率先して自殺予防に働いている事も知らず有難いと感じた。最近はSNSが浸透してきているのでSNSを使った予防策が効果的なのではないだろうか。

鹿児島市でも年間自殺者が100名前後もいることを初めて知りました。学校でも、企業でも、もちろん家庭内でも、相談しやすい環境を作ることは、大切だと感じました。

自殺願望の人へ相談窓口を広く、情報提供する。周りの人は相談窓口への相談を勧める（専門家）相談窓口は各所（近場）にあることを教える。

私はゲートキーパーの制度を初めて知った。と言うほど、世間には大して浸透していないと思う。そして、悩んでいる人に気づき、話を聞き、必要な支援をして見守るとあるが無理があると思う。何人の自殺を考えた人がゲートキーパーの支援により思いとどまったのかデータとして出してもらいたい。キレイ事ばかりで自殺はなくなる。十人十色とある様に、様々な人間模様、環境の中で悩みの無い人がいないと思う。市の取組が、ほんとうにその情報を必要としている人に届いていないのだと思う。学生であれば、市と学校が協力して、子どもたち一人一人とアドバイザーが話せる環境を作るなど、難しいとは思いますが、作った方が効果はあるのかなと思う。

相談窓口カードは窓口が網羅されていて素晴らしいと考えるが、実際の担当職員の方々の対応が一番の鍵となると思うので、大変な仕事だと思うが相談者に寄り添って対応をお願いしたい。また、関係機関相互の連携が必要なケースもあると思うので、日常からのつながりを大切に業務を行っていただきたい。

悩んでる人を見つけれてないのか、悩んでる人の悩みをちゃんと受け止めてくれる人がいないのか、その他に原因があるのかは分からないけど、自殺をするまでにその本人が発してるサインを逃してるから自殺を減らせてないじゃないですか。

以前、精神障害を持ちながらご家族の面倒を見ておられた方のお宅へ訪問していたが、私自身精神的に参ってしまうことがあった。しかし、その後、その方が自殺されたという事を聞き、もっと違う対処の仕方があったのではという思いが残り悔やんでいる。その方にも専門の方がじっくり話を聞き、適切なアドバイスがなされていたらと思った。

相談窓口とかだけではなく…誰もが気軽に入れるオープンな空間があればいいなあと思います。お茶やお菓子を楽しみながらいろいろな人とふれあい語れる明るく楽しくそして落ち着けるところ

「まちかどコメンテーター」というのをつくったのなら、これをどどんいかにしてほしい。一回集めて講習する機会をつくったりする講演会に招待するなり、市民のひろばにのせても見逃しがちになりやすいので直接お願いするとか

相談をした後、どうなるのかがわからないです。相談できる人は、自殺しないのではないかとともに思います。

今の問題に向かうのではなく、全てからにげて全く違う場所で生きていく方法がある事を考えてもいいと思う。どうして現状で何かをしてあげようとするのか？頭で考えるのではなく心で思っただけの対策が必要なのではないでしょうか？

自殺対策については、同封されている鹿児島市無料相談窓口カードは小学校のころから配布されるなどして目にしているうちに本当に何かあった時の切り札というイメージがありました。それくらい今後も引きつづきこのカードの配布は続けていけたらいいと思います。大々的なPRなどよりよっぽど効果的と感じます。

少し思うことは過剰報道、過剰反応、ネット社会、良い加減に付き合っていきたいです。基本的には人間関係は会話が大切だと思うので、苦手な人は孤立しないような努力も大切だと思います。

自殺対策計画事業を取り組んでいる事を知らなかった。学校でいじめの悩み相談カードをもらった事があります。でも悩んでいる人は相談する事したいが出来なくて最悪の結果になる場合があると思います。とても難しい問題だと思います。

全て傾聴、寄り添い理解してもらえることで絶望感から解放されることもあると思う。同じ苦しみを味わった人の言葉は自殺を考えている人の心に届く率が高いと思う（苦しみの感じ方、度合いはそれぞれ違いますが…）上から目線的な言葉は届かないと思う

自殺対策は市として行わなければならない事でしょう。でも「なぜ自殺を」という源に入っていかなければ根本的な解決は難しいですね。市という公が行う時、「生きている事が色々あっても楽しい」「だれかが回りにいる」という点で少し何かできると良いなと思います。民生委員については大、大、最低です。知りえた事を近所に話したり、守秘義務の守れない方々で辛い事いっぱいです。

鹿児島市で毎年100人が自殺で亡くなっている事は衝撃でした。自分ではどうにも出来ない事が、自殺につながるの、自分を鍛える精神が必要なのでは。今の人はゆとり教育、悟り世代、自分が自殺を考えたことがないのは道德の時間等で自殺しない心が育まれた気がします。

自殺について今までに考えた事がなかったのでこれを機会に考えていきたいと思います。

家族や親しい人の「何かいつもと違うなあ。何かあったのかな？」と思ったとしても、思っただけでその場で、声をかける事ができない気がします。話の途中だったり、何か行事の最中だったり、人が多くいると、聞かれた側も答えづらいと思うので。後日、聞こうにも仕事や家事など忙しくなかなか時間をさけないと思います。家族やよく会う人なら、声掛けは可能かもしれませんが、「何でもない」と言われると「そうなんだ…」と思って「まさかこの人が自殺を考えてる」なんて思いもしないから深く考えずスルーしてしまいそうな気がします。私は、自分の子供には、死んだ人の周りの人、残された人の気持ちの悲しさを話しています。残された人が一番苦しむことになる。と話しています。

いところが自殺しました。原因が分からず、高齢の両親はその後体調を崩し寝込むことが多くなりました。自殺のサインとか、本当にあるのかよくわかりません。相談窓口で相談する人はまだ望みがあるのではないのでしょうか。本当に自殺する人はいきなりするものだと今回の事で思う事でした。

様々な対策を考えられていて素晴らしいと思う反面、世間への浸透がまだまだのようにも感じました。いつでも相談できる窓口があることは大切。が、自殺の相談ってなかなか言えない人の方が多いイメージもあります。学校、職場など置かれている場所で日頃からコミュニケーションを図る。上司（先生）が面談する機会をつくるなど、近くにいる人が察する、気付くことが大事であるように感じました。

毎年100人前後の人が自殺で亡くなっていることを知ってまず驚きました。その要因は1人で悩むことだろう。自分一人で解決しようとする時間が長くなればなるほど要因が高まってくると思う。知人・友人・家族・地域の人との交流の機会をできる限り多く持つ必要があると思います。

ひとりになると考えないで良い事も考えてしまう。なるだけご近所のコミュニティが必要なのではないのでしょうか。

電話でもSNSでも自分のおかれている状況を誰かに話してみるという事が大切かと思えます。吐き出すだけでも心は少し軽くなるのでは…又、そこからいいアドバイス又、何かに繋げて頂けることで、道は、希望は、付いてくる可能性大かと。

中高校生の相談というか電話で悩み相談のボランティアがあるのは知っていた（大学生が相談を受けるもの）その他にいろいろなサポートをするのがあるのは知らなかった。今回いろいろと知る事が出来て良かったです。中高年のうつ病で自殺をするという話はよくテレビで聞いたりしていたし、中高校生はいじめでの自殺とか…もっと周囲に気を付けて、少しでも手伝いになればいいと思います。

相談してみようかなと思えるような環境を私達一人一人が心がけて作っていかないといけないと思う。

悩みが深いほど、身近な人ではなく、他人の方が相談しやすいということもあると思う。話を聞いてもらえるところがあるのだということを広く知らせてほしい。活用されなくても悩みのない人生などなく、あるということに意義があるのだと思う。